

沖野岩二郎

おきの いわさぶ

小説家、児童文學者。明治九年一月五日和歌山

縣生れ、昭和二十一年一月二十日歿（八三六―一九五）。號五點、宿命子

等。明治四十年明治學院神學部卒。新宮基督教會牧師と、大正六年、

「大阪朝日新聞」の懸賞小説の大逆事件を取材した「宿命」が入選、

翌年上京して統一基督教會牧師となり、京教活動の傍ら作品を発表。

編著書、久米邦武著「日本古代史と神道の關係」（筆記、明治四十年

十月、千五百齋齋社書房。再刊「日本古代史と神道との關係」昭和十

四年五月五百創元社「日本文化名著選」）、『煉瓦の雨』（大正七年

十月一日福永書房）、『生きた賭しごと』（大正八年七月一日警齋社書房弘榮堂）

『渾沌』（大正八年十月、千五百岩波書房）、『宿命』（大正八年十一月

月、千二百月刊、福永書房發賣）、『沖野岩二郎著作集』（4『基督教

新教線斷面』一各明治思想小説）大正九年四月十二日、5『煙れる麻』

七月、千二百警齋社書房和田弘榮堂）、『地心物語く入』（大正九年十一月五日

京都・民衆文化協會出版部）、繪人『頬白の歌』（大正九年十一月十

五日日本評論社出版部）、『戀の芝居』（大正九年十二月、千五百日本

評論社出版部）、『白路を見つめく』（大正十一年十一月一日大阪屋

號書店）、『生れつぐせば』（大正十二年十月十五日大阪屋號書店）、

『聖船物語』（大正十四年二月、千五百イデア書院「兒童圖書館叢書」）

『人間なるが故に』（大正十四年三月十八日大阪屋號書店）、『私活

生きとかる』（大正十四年六月、千五百大阪屋號書

房）、『金の釣瓶』（大正十四年七月十七日金の星

社「童話讀本」）、『日本の兒童と藝術教育』（大



正十四年十一月十五日、再刊・昭和八年十一月十五日金の星社）、『お

- なしき假面』(大正十五年五月十五日大阪屋敷書店)、 『求め得ぬ嘆  
 き』(大正十五年十一月五日大阪屋敷書店)、 『宿命論者のことば』  
 (大正十五年十一月十日福永書店)、 『日本寶海童話集・I』(合著  
 ・日本童話協會・蘆谷重常編、大正十五年十二月、千代田隆文館株式會  
 社)、 『牧童の主人とふたりの人の話』(昭和二年十一月、千代田陽  
 堂書店「聖書物語文庫」)、 『兒童文學』(松村武雄、昭和二年  
 十一月一日文化生活活研究會「家庭科學大系」)、 『救し得ぬ惱み』(昭  
 和二年二月十日福永書店)、 『世界の志物語』(昭和二年四月五日ヤ  
 ルス「日本兒童文庫」)、 『地球は變る』(昭和二年九月十五日大阪  
 産院書店)、 『日本模範童話選集』(合著・長沼依山編、昭和二年十  
 一月二十五日同文館)、 『長篇童話集』(昭和四年五月五日國民圖書  
 株式會社「新日本少年文學全集」)、 『賀川 豊彦、  
 沖野岩三郎篇』(昭和四年六  
 月一日新潮社「現代長篇小説全集」)、 『ユートピア物語』(内題「ユ  
 ートピア物語」昭和五年五月二十日婦人之友社「フレンジドライブレテリ  
 ー」)、 『太平洋を越えて』(昭和七年五月八日四條書房)、 『歐洲  
 物語』(昭和八年十一月二十四日四條書房)、 『くづこへ行くと』(昭  
 和八年十一月二十日子供の教養社)、 『話題手帳』(昭和九年八月十  
 日四條書房)、 『聖書  
 物語ダビデ』(昭和十年二月十日基督教出版社「基  
 督教兒童文庫」)、 『童話讀本・三年生』(昭和十一年六月二十五日  
 金の星社)、 『新こゝ童話・六年生』(昭和十一年十一月二十八日金  
 の星社)、 『現代文藝事典』(編著、昭和十一年一月十日厚生閣)、  
 『迷信の話』(昭和十二年二月二十日信房社、再刊、二十六年二月五  
 日信房社厚生閣)、 『聖女へれん・けらあ』(昭和十二年四月十日金

星堂)、『常識と教養』(昭和十一年五月)、『新学生堂』、『母親教育  
シリーズ』、『日本神社考』(日本宗教史の讀み方)、『昭和十二年  
十二月十八日恒星社)、『好日記行』、『放の隨筆集』(合著・大草實編  
昭和十二年四月)、『二十五日先の倉書店』、『日本建國史考』、『古事記・日  
本書紀の讀み方』(昭和十二年八月十八日恒星社)、『童話讀本』、『六  
年生』(昭和十四年二月)、『千金の星社』、『宛名印記』(昭和十五  
年五月十五日大阪・美術と趣味社)、『大人の讀んだ小學國語讀本』  
(昭和十五年九月十九日盛林堂)、『セルバンテス作ロドン・キホーテ』  
(譯)、『昭和十五年十月六日』(再刊)、『二十二年六月』、『千日童話春秋社  
「世界名作物語」』、『歸つて来たロビンソン』(昭和十六年九月十  
日フタバ書院)、『宛名印記』、『美術と趣味の隨筆集』(昭和十六年九  
月二十八日東水社)、『國語文化講座』、『第五卷』、『國語生活篇』(合著  
昭和十六年十二月五日朝日新聞社)、『記南太平記』(第一卷)、『木劍  
村止の巻』、『昭和十七年十二月十五日』、『第一卷』、『紅白富門の巻』、『第二卷  
』、『飛雲斷續の巻』、『二十日』、『第四卷』、『金紋と葵の巻』、『十八年』、『二月十五日』  
、『第五卷』、『將軍官下の巻』、『二月二十八日興川書房』、『平田篤胤とその  
時代』(昭和十八年二月)、『千日厚生閣』、『撰持雅澄とその時代』  
(昭和十八年五月)、『千日起山房』、『吉田悅藏文集』(編)、『昭和十九  
年九月十日吉田悅藏記念出版委員會』、『滋賀』、『近江兄弟社』、『吉田悅  
藏傳』(編)、『昭和十九年十一月』、『千五日吉田悅藏記念出版委員會』、『滋  
賀』、『近江兄弟社』、『書を改むべき日本歴史』、『高天原研究』(昭和二十  
一年七月)、『千日金の星社』、『童話』、『どろろ』、『山』(昭和二十一年十  
月)、『千日前田出版社』、『童話集』、『仲よし』(昭和二十一年十二月)、『千

白金の星社)・同『輝の曲』(昭和一

十二年九月十五白金の星社)・『書寫ノ

改むズキ日本歴史(第一卷)一神武大

皇御光』(昭和二十一年十月十五白金の

星社)・『いづこ行く』(昭和二十

二年二月二十白大阪・弘文社)・『キ

リスト教物語』(昭和二十二年十月五日長野・斐科書房)スケール文

庫』(長篇純情小説『森の祈り』(昭和二十四年八月十日白金の星社)・

『沖野岩三郎の伝』の前半生』(昭和五十八年十一月二十日沖野岩

三郎先生顕彰事業実行委員会公刊)等。

